

緑化だより

No.61 平成23年6月号



ヤマアジサイ 平成22年6月13日

○きのこの味“渋い味のきのこ”

○サクラのあれこれ

○野鳥の世界

○季節の花

○研修会紹介

○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

きのこの味

渋い味のきのこ チチタケ(乳茸)

きのこの名前を判別する時、その判断材料の一つになるものとして“味”があります。生のきのこを少しだけかじってみるのです。味が無いものが多いのですが、中には辛いとか苦いとか酸っぱいものもあります。今月は渋い味のきのこをとりあげます。

チチタケは広葉樹林に夏～秋に発生してきます。傷つけると白色の乳液がたくさん出てきます。この乳液の味が渋いのです。でもこのチチタケは食用になり、栃木県ではマツタケに次いで人気のあるきのこで、“チタケ”と呼ばれています。肉質はボソつきますが独特の風味のあるダシが出るようです。

また、チチタケの乳液には3～5%のゴムの成分が含まれています。しかし、一般に使われるゴムと分子構造が少し異なるのでゴムの製品にはできないようです。



サクラのあれこれ(3)

サクラについて

サクラといえばソメイヨシノを指すほど、日本中いたるところに植えられています。

群落で植えられるところが多いので、さくらの名所といえば、ソメイヨシノの咲く場所を指すことが多いようです。その艶やかさが人々を魅了し、花見シーズンには、花の下で酒宴を開く姿もみかけます。

広島県緑化センターも桜の名所の仲間入りをしていますが、ソメイヨシノは全体の半分程度で早咲きの十月桜や陽光などからソメイヨシノに移り、ソメイヨシノと入れ替わって遅咲きの関山や楊貴妃、緑の花をつける鬱金(うこん)や御衣黄(ぎょいこう)などが一斉に開きます。十月桜が10月に開花を始め、5月半ばまで切れることなく色々な種類の花を観賞できるのも、緑化センターの特徴です。

ワntenポ遅れて、ウワミズザクラが房状の白い花を咲かせます。「これもサクラです。」という、華やかな色を想像する人には特異に映るのか、「サクラではないのでは…?」といわれます。

最も植栽本数の多いソメイヨシノは、その数を増やし続けているように思えますが、近年新しく植える場合は、別の種類を用いるところが増えています。

といいますのも、ソメイヨシノはコヒガンと共にテングス病にかかりやすく、より手当をしなければならぬからです。テングス病を放任すれば、十年を待たないで枯死してしまいます。

桜の手当ての相談で、各地を歩くことが多いのですが、全く手を入れてないのではないかとと思われるところもあります。折角楽しみに植えられたサクラが、名所でなく厄介なお荷物にならないよう注意が必要です。

サクラの手入れは難しくありません。肥培管理、薬剤散布や確実な剪定を行えば、よい結果を得られます。毎年見事な花を咲かせるために取り組みをお願いします。



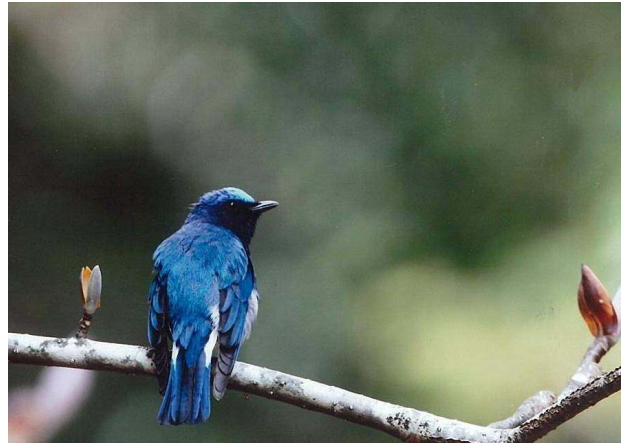
ウワミズザクラ

野鳥の世界

オオルリ

サクラの花も終り樹木の芽が伸び始める頃、オオルリの雄が南方から帰ってきます。

旅の疲れもあるのか、地上に近い低い枝の間や、地上におりて採食しています。鳴き声も、グゼリのように、低くつぶやくように鳴いて、気をつけていないと聞こえないほどです。溪流に沿った岩場のある林を好み、テリトリーを決めると、遅れて渡ってくる雌を誘うために、高く透しの良い梢や枯れた枝に止まって、ひととき高い声を張ってさえずりを繰り返します。



初夏の日差しを受けて、ルリ色(コバルトブルー)に輝いて見える姿は「幸せの青い鳥」といえる美しさを感じさせてくれます。さえずりもウグイス、コマドリと共に「日本三鳴鳥」の一種にあげられています。そのため、江戸中期から昭和初期までは、カゴの鳥としても愛好されていました。

5月初旬から中旬にかけて到着した雌は、雄のさえずりを聞き分けて近づき、体色のツヤや、成長を見分けて番(ツガイ)を組みます。

巣作り、子育ては雌雄協力して行い、忙しく給餌を繰り返します。

オオルリは、主に昆虫を食べているようで、水生昆虫の多い溪流に沿ってテリトリーを作ると考えられます。水生昆虫のカゲロウ類、ユスリカ、アメンボウ、カワゲラなどが、渡来したオオルリの体力を回復させてくれます。樹木の若葉が伸びる頃には、ガの幼虫やミノムシ、シャクトリムシ類が発生しこれらの豊富な昆虫でヒナを育てます。そのためクチバシの先端が猛禽類のようにカギ型に鋭く曲っています。

空中を飛行する虫を追ってフライングキャッチでの採食も珍しくありません。鳥類はその食性に従って姿形が進化してきたようです。

季節の花

当園は、市内より一週間くらい遅れて花が楽しめます。

6月も、園内ではたくさんの花が咲いています。

ウツギの仲間の、ウツギ、サラサウツギ、タニウツギ、ハコネウツギ、ノリウツギ、コガクウツギ、ツクバネウツギ。

鹿の食害にあい以前ほどではありませんが、アジサイの仲間のアジサイ、ガクアジサイ、ヤマアジサイ、コアジサイが咲き、オオデマリ、カンボク、エゴノキ、テイカカズラ、



イワガラミ

スイカズラ、イワガラミ、リョウブ、クマノミズキ、シモツケ、ムクロジ、センダン、マタタビ、ザクロ、ムラサキシキブ、ナツツバキ、ジャケツイバラ、キササゲ、ツクバネユリノキなど、ゆっくり散策しながらお楽しみ下さい。

研修会紹介

- 6月3日(金) 『庭木の手入れについて』 10:00～12:00 学習室 集合
夏の庭木の手入れとマツの緑摘みについての解説と実習を行ないます。
講師: 樹木医 工藤 徹
- 6月11日(土) 『6月の自然探勝』 10:00～14:00 管理事務所前 集合
6月の樹木や花を観察しましょう。
講師: 環境カウンセラー
自然観察指導員 和田 秀次
- 6月18日(土) 『犬のマナー教室』 10:00～12:00 集いの広場 集合 (要予約 先着 50名)
愛犬を社会のよきパートナーの一員としてのエチケットを学びましょう。
講師: (社)日本愛玩動物協会
広島県支部 西山 晴美
- 6月25日(土) 『初夏の写真教室』 10:00～12:00 学習室 集合
写真コンクールの応募作品の公開審査と講評を行ないます。
〆切りは6月19日です。
講師: 二科会会友 宗岡 泰昭
- 6月26日(日) 『初夏のきのご観察会』 10:00～12:00 管理事務所前集合
園内を歩きながらきのこの観察をしましょう。
講師: きのごアドバイザー 川上 嘉章

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- ◎ 第10回ひろしま「山の日」県民の集い 6月5日(日)
レストハウス周辺及び園内で色々な催しを行ないます。
- 手描き友禅の会作品展 5月11日(水)～6月19日(日)
レストハウスにて、手描き友禅の小物作品を展示しています。
- 七宝焼同好会作品展 6月22日(水)～7月31日(日)
レストハウスにて、趣味の七宝焼の作品を展示します。
- ボタニカルアート展 6月8日(日)～6月29日(日)
レストハウスにて、植物を観察し、精密に描いた絵を展示します。
- ◎ 開園日のお知らせ
6月は、月曜日 休園します。



アカミゴケの仲間

表紙： ヤマアジサイ ユキノシタ科アジサイ属

北海道から九州までの山地の湿った林床、谷間など生える。
花はガク型、テマリ型があり、花色は土壌や日照条件により青、
ピンク、白と変化する。アマチャもこの仲間。